

千葉圏域コンソーシアム運営協議会

敬愛大学における事業取組み報告 (2010年度を中心に)



敬愛大学

目次

【敬愛大学における事業取組概要】

1. はじめに (2分)
2. FDへの取り組み (3分)
3. moodleを活用した開発教育 (10分)

1. はじめに

【コンソーシアム事業における敬愛大学の位置づけ】

・国際化教育

⇒ユニバーサル・コミュニケーション教育へ貢献

【敬愛大学がmoodle活用によってe-learning教育を進める2科目】

1. 一年基礎演習：

①導入、②キャンパススキル、③アカデミックスキル、④コミュニケーション力(日本語表現)、⑤その他、⑥二年次への橋渡し

2. 海外スクーリング：

①実地研修、②国際協力、③異文化理解

2. FDへの取り組み

【学内推進組織】

- ・コンソーシアム支援委員会
(8人の教員と*職員3人)

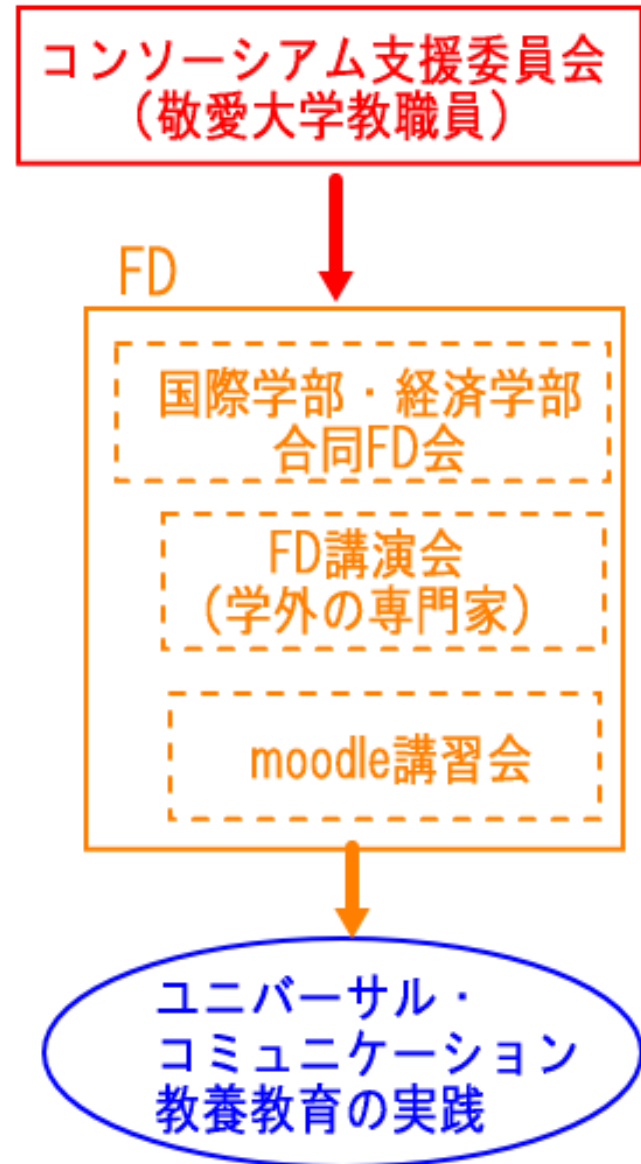
*メディアセンター職員含む

【FD活動】

- ・合同FD会
- ・FD講演会
- ・moodle講習会

⇒組織的なFD活動の展開

⇒ICTを活用したユニバーサル・
コミュニケーション教育の開発と推進



コンソーシアム支援委員会



合同FD会



FD講演会



moodle講習会



コンソーシアム支援委員会

- 連携事業を実施するための学内推進委員会
- コンソーシアム事業に関わる予算、事業計画と実践に関わる全ての項目について議論が行われる場
- 毎月1回開催を目標に、2011年1月までに計12回開催
- コンソーシアム事業の普及のために教員間のコミュニケーション、教育改善のFDを推進する重要な会議として機能。



FD会

- 国際学部、経済学部の両学部の教員と職員が一同に集まり、コンソーシアム事業の報告をする場
- 授業実践に関する課題を共有し、話し合う場



【2010年度題目】

第3回:「一年基礎演習委託教材のお披露目会と説明会」

第4回:「アメリカの大学におけるe-learning授業報告」



moodle研修

- 授業でmoodleを活用できるよう教員を対象とする研修
 - 支援委員会で3タイプの研修を開発
 1. 「昼休み研修」: 12:15-12:50までの短時間研修(毎週火・木開催)
 2. 「集中研修」: 60分間の集中研修(夏季休業前に2回開催)
 3. 「個人研修」: 希望される日時に特任教員と個別に研修
 - 支援委員会でmoodle研修のシラバスを独自に開発:
 - 【基礎編】: 1. 登録、2. シラバスの掲載、3. 授業資料の掲載
 - 【応用編】: 4. 小テスト作成、5. レポート課題の作成と回収
- ⇒ 3年の積み重ねの結果: 個人研修の要望が高い



敬愛大学コンソーシアム委員会会報

- 敬愛大学の全教職員を対象に会報を発行し、コンソーシアム事業取組の情報共有を行っている。
- 会報は現在第7号まで発行。2011年3月末に第8号を発行予定。

FD活動からの実績

- moodleへ登録済の専任教員の割合は、6割を超える。
- 非常勤講師の先生方においても、授業でmoodleを活用中。
- 1年生は全学生moodleに登録済。
⇒ 4年後には全学生がmoodleユーザー

3. Moodleを活用した教育実践



3. Moodleを活用した教育実践(1)

只今から敬愛大学のmoodle教材の一例をご覧ください。

- コンソーシアム支援委員会で開発中のmoodle教材

- ①一年基礎演習

- ②海外スクーリング

- ③プレカレッジ教材

■ 1年基礎演習教材



「1年基礎演習」用のコースです。本コースにアップされている教材は、
どなたでもそのまま利用することができます。
教材の内容は、トピックのタイトルをクリックすると表示されます。

【利用方法】



マーク：印刷教材です。そのまま印刷したり、ダウンロードして利用してください。
通常教室で利用できる教材です。



マーク：moodle教材です。自分の授業コースにインポートした上で利用してください。
PC教室で利用できる教材です。



マーク：参考となるリンクです。授業準備に利用してください。

ニュースフォーラム

シラバス

■ 本コースのシラバス

■ 各先生のシラバスアーカイブ



スタートアップ



印刷教材です



自己紹介をしよう

自己紹介に利用できるカードや、自己紹介ゲームを紹介しています。

■ 自己紹介カード

■ 自己紹介カード提出

Moodle Top ▶ 教材ショーケース1 ▶ リソース ▶ 自己紹介カード

【自己紹介カード】

自己紹介カードです。
そのまま利用する場合にはPDFファイルを、
項目を変更して利用する場合にはワードファイルを
ダウンロードしてください。



文献引用のルール

レポートや論文で他の人の論文や著書引用する場合、著作権に注意して正確に引用しなければなりません。
引用には以下のようなルールがあります。

- ・ 引用する著作物は公表されたものであること
- ・ 引用する必然性が明確であること
- ・ 引用部分が明確であること
- ・ 出典が明記されていること



これらは著作権法の第32条(引用)と第48条(出典の明示)に基づいています。

文献を引用する際には、引用した箇所を明確にしなければなりません。

▼明確にする方法

- a. 引用が短い場合：文を「 」で括弧()ります(※印参照)

<例>

この状況についてホップズは「各人の各人に対する戦争状態」(注1)とまとめた上で次のように述べている。



- b. 長い文章を引用する場合：改行した後①に、一段下げて引用文を記し②、最後にまた改行③します。

<例>

この状況についてホップズは「各人の各人に対する戦争状態」(注1)とまとめた上で次のように述べている。

①

②→各人は望みのあるかぎり、平和をかちとるよう努力すべきである。それは不可能のばあいには、戦争によるあらゆる
運動と利益を求め、かつこれを用いてもよい。(注2)

③

これは自然法の第一法則である。

1

「海外スクーリング」へようこそ！😊😊



敬愛大学海外スクーリングの主な実施国



先生方からのメッセージ！😊😊

○ アジア

📖 中国を担当した家近先生

📖 ベトナム・カンボジアを担当した高田先生

○ 北米

📖 アメリカを担当した増井先生

○ 南米

📖 ブラジルを担当した矢澤先生

○ 中東・ヨーロッパ

📖 トルコを担当した水口先生

3

海外での先輩たちの様子を見てみよう！！😊😊



楽しそうな写真がいっぱい！😊😊



📖 第1回: フィリピン・アメリカ・ベトナム・中国・ロシア

📖 第2回: ベトナム・台湾

📖 第3回: 台湾

📖 第4回: 韓国

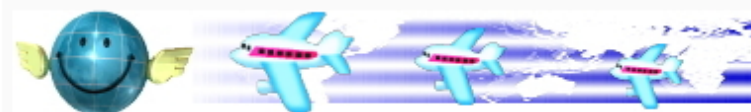
📖 第5回: ベトナム・カンボジア・ブラジル

📖 第6回: 中国

📖 第7回: トルコ・アメリカ・ニューヨーク

8

出発シミュレーションを始めるよ！😊😊



さあ、出発します！

📖 成田空港までの行き方

📖 空港内のマップ(地図)

📖 第一旅客ターミナル: 出発手続き

📖 第二旅客ターミナル: 出発手続き

📖 出発前によくある質問

成田空港の情報を携帯に登録しておこう！😊

A 一般教養コース 第1回

A. 一般教養コース 第1回



A 一般教養コース 第1回

設問1 以下の問いに順に答えなさい。

(1) 15%の食塩水200gに水を加えたら10%の食塩水になったという。何グラムの水を加えたでしょう？

☐ 150g ☐ 150g ☐ 150g ☐ 150g

(2) (1) でできた食塩水を熱したら20%の食塩水になったという。蒸発した水は何グラムだったでしょう？

☐ 150g ☐ 150g ☐ 150g ☐ 150g

(3) (2) でできた食塩水に10%の食塩水を加えたら13.75%の食塩水になったという。10%の食塩水は何グラム加えたでしょう？

☐ 150g ☐ 150g ☐ 150g ☐ 150g

回答



14
得点: -/10

【第2回 国際社会とアメリカ】

2001年9月11日、アメリカでは同時多発テロ(9/11テロ)がありました。

当時のアメリカ大統領ブッシュは、アメリカの安全を守るために、国際テロの根絶を目指して「テロとの戦い」を始めた。アメリカのテロとの戦いでは、①軍事面での戦い、②テロ防止のための法制度の強化、③民主主義の拡大という3つの側面があります。①では、アフガニスタン戦争(2001年)、イラク戦争(2003年)が行われました。②では、国内における出入国管理の厳格化、情報管理の強化等が、そして、③では、中東における民主化を導いています。



さて、ブッシュ大統領時代の2005年の国際世論調査に基づき資料を読み、次の問題に答えなさい。

【問題】

アメリカがなぜ戦われるのかについて、『ニューヨークタイムズ』紙のコラムニスト、トーマス・フリードマンが解説していますが、あなたはどの解説について、どのように思いましたか。まず、フリードマンの意見を要約して、次にあなたの意見を述べなさい。【400字程度】

資料出典: 立山真実監訳『9/11テロから世界を救った自由国民』、2008年

取組成果からの気づき

【成功の法則】

1. 授業の基本は対面授業、moodleは副教材として活用
2. 教員個々のmoodle教材に加え、学部共通のmoodle教材を作成
3. 無線LANの配備によって、ノートパソコンを普通教室に持ち込み、IT活用授業を積極的に行えるようになった

「敬愛アクティブ・ラーニング」の始動

敬愛アクティブラーニングの概要



発信力を養うプレゼンテーション



クラスメイトとのディスカッション

コミュニケーションを
重視した
Face to Face の
e-learning授業の実践



クラスメイト・教員との相互レビュー



座学による基礎知識の習得

現在の課題

『教員側からの声』

- ◎ moodleを使うと学生のモチベーションが上がる。
- ◎ 事前に授業用教材の作り込みができるので授業運営の効率化が図れた。
- △ moodleのコンテンツを充実させていきたいが、多忙でなかなか実践できない。
- △ moodleの使い方に躓くことがある
(特に小テスト問題の作問、テスト結果のダウンロード時)。

『メディアセンターからの声』

- △ moodleの作業にあたる人員が不足している。
- △ 先生方の要望に応えられるか不安(人材不足、技術的な難しさ)。

『学生からの声』

- ◎ 自宅から授業資料のダウンロードができるので嬉しい(予習復習・就活欠席時)。
- ◎ moodleを自律的に使い学習を進めていきたい。
- △ moodleの操作がうまくいかない時がある(サポート体制の必要性)。



【メモ欄】

- ご自由にお使い下さい。